

中部ブロック会報 第30号

平成27年度中部ブロック研究会【1日目】2016年1月9日(土)【2日目】2016年1月10日(日)

開催地:金城大学・金城大学短期大学部 〒924-8511 石川県白山市笠間町1200

【平成27年度・中部ブロック研究会を終えて】

ブロックリーダー 手嶋 慎介



2016年1月9日・10日の2日間、金城大学・金城大学短期大学様において、今年度のブロック研究会が開催されました。今回も、会員等30名超、プレゼンテーション・コンテスト出場学生7名のご参加をいただき、大変賑わいのある研究会となりました。6月の全国大会を想定をしながらの会場準備、当日運営ということで、例年以上に万全の体制が整えられた結果であったと思います。会場を快くご提供いただき、かつ、物心両面にわたりご支援を賜りました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私にとっては、今期より学会副会長に就任された米本倉基先生からバトンを受け、何とか走り始めることができた記念すべき研究会となりました。元リーダーの岡野絹枝先生にご助言いただきながら進めることができたことも非常にラッキーでした。高等教育機関を取り巻く厳しい環境の中で、こうした繋がりを大切にすることは、教育・研究活動の新たな道を開く要と考えます。今期の本ブロックの活動としては、共同研究の推進に重点を置きたいと思います。ブロック会員の皆様には、より一層の研究会活動へのご参加・ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

【第35回全国大会に向けて】

大会事務局長・ブロック運営委員 若月 博延



1月末に全国の会員に中部ブロックで行う全国大会について、第1報を発送して、お知らせしたところです。早いもので6月12日、13日の全国大会まで4か月を切りました。金城大学では、現在、大会スポンサーを募るための準備や地元マスコットの著作権使用許諾など、着々と準備を進めているところです。1月の中部ブロック研究会でも申しましたが全国大会の運営は中部ブロックの会員の皆様の協力を得なければ成功は難しいと思っております。

6月の石川は全国大会の1週間前に金沢で行われる金沢百万石まつりをはじめ、各地で様々なイベントが行われる時期でもあり、またたくさんの学術会議が開かれる時期でもあり、大変活気にあふれています。そのような時期に皆様をお迎えできることを大変光栄に思っております。金城大学スタッフ一同、万全の態勢に向けて粉骨砕身務めていきたいと思っておりますのでご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

第35回全国大会実行委員長 岡野絹枝 (金城大学短期大学部) ※敬称略
副委員長 北潟克輔 (金城大学)
本部副会長 米本倉基 (藤田保健衛生大学)

平成27・28年度のブロック運営委員

・リーダー/ 本部常任理事	手嶋慎介 (愛知東邦大学)
・サブリーダー (北陸地区) / 本部理事	加納輝尚 (富山短期大学)
・サブリーダー (東海地区) / 本部評議員	河合晋 (岡崎女子短期大学)
・運営委員	西川三恵子 (名古屋経営短期大学)
・運営委員	若月博延 (金城大学短期大学部)
・運営委員	奥村実樹 (金沢星稜大学)
・運営委員	岡野大輔 (金城大学)

ワークショップ【アクティブラーニング型授業の構成要素】

講師 杉森 公一先生(金沢大学)

ブロック運営委員 岡野 大輔 (金城大学)



杉森公一先生

金沢大学 大学教育開発・支援センター准教授の杉森公一先生をお招きして、「アクティブラーニング型授業の構成要素～知との対話・協同・探求をめぐる技法と授業設計～」というテーマでワークショップを開催しました。最初に、クリッカーを使用しながら、アクティブラーニングの考え方や、これを取り入れた授業設計の方法などについて講義をして頂きました。その後、各自の担当する授業について、授業で学生に何を身につけてもらうか(学習到達目標)、到達目標に向けてどのように学ぶか(学習活動)、学修成果をどのように評価するか(教育学修評価)という3つの視点を踏まえて、グループワークを行いました。「真の学び」「深い学び」とは何か、そのためにはどのような授業を展開すべきかを共に考え、参加者全員が心を合わせた大変有益なワークショップとなりました。

研究発表①【ものづくり人材教育「デザインとコミュニケーションのためのスケッチ」の実践】

尾関 智恵 (滋賀文教短期大学) 土屋 衛治郎 (九州工業大学)



尾関智恵先生

技術者をとりまく環境はすでにグローバル化が進み、言語を通じたコミュニケーションだけでなくアイデアを共有しプロジェクトを進める力が必要となっている。こういった流れを受け、他者との協働場面を経験できる学習施設が高等教育機関を中心に構築されているが、場の提供だけでなく活動を企画して実務につなげていく教育プログラムを構築する必要がある。そこで、開発現場などで利用される「スケッチ」や「ラフ」を用いて、複数人で抽象的な概念のやり取りを行ったり、相手と一緒に書き込んだりすることでアイデアを練り上げる状況を用意するワークショップを企画・実施した。「スケッチ」を使ったコミュニケーションを経験させることで絵を描く抵抗を減らし、アイデアを図示することの効用を学生に体感させることが出来た。

研究発表②【医療通訳養成の現状と課題】

米本 倉基・濱島 由季 (藤田保健衛生大学大学院)



<発表時の様子>

訪日外国人が増加する中、外国人が日本の医療機関で安心して治療を受けるために不可欠な「医療通訳」の充実が求められており、本学大学院では、この養成コースを2016年度に新設する。本発表は、このコース新設に至る過程で得た、医療通訳の現状と課題と、今後の養成教育の在り方を報告であった。特に、大学病院等の高度な医療機関における医療通訳には、医学、医療、言語、国際文化の知識を総合的に兼ね備え、文化や習慣を含む「患者ニーズを通訳できる力」と、医療人として、医療サービス全般について「コーディネートできる力」が必要で、現状においては、その能力を総合的に有する医療通訳者は極めて少ないことがあらためて解かった。一方で、国際的には、医療通訳者の職能団体であるIMIA(国際医療通訳士協会)が認定するCertified Medical Interpreter(CMI)試験があり、この取得を目指すことが高度な医療通訳教育のひとつの大きな目標となることが解かった。

研究発表③【短期大学における医療事務資格取得についての一考察】

黒野 伸子・河合 晋 (岡崎女子短期大学)



黒野伸子先生

本発表は、短期大学における医療事務系資格取得の在り方を先行研究、求人情報、医療機関への調査から考察した。資格取得に関する先行研究では、阿形(2013)、久山(2014)がある。久山は職業資格における受験行動を文化行動として捉え、「ハイカルチャーへの親和性が高い層は、より受験しやすい」と述べている。教養科目の重要性が読み取れ、短期大学における資格教育の在り方に重要な示唆を与えている。求人情報からは、医療事務職に資格を要求する医療機関が一定数存在し、医療事務職の資格取得を重視する傾向にあることが明らかとなった。医療機関へのアンケート結果では、約3分の2の医療機関が、医療事務系の資格が必要だと考えており、職員採用に資格取得を考慮している。医療事務有資格者の輩出は、教育機関の重要課題である。今後は「資格の種類」「難易度」「IT化への対策」の検討も含め、医療機関の望む医療事務職員の養成に努めなければならない。

研究発表④【医師事務作業補助者研究の変遷と今後の展望】

濱島 由季・米本 倉基（藤田保健衛生大学大学院）



米本倉基先生

2008年の診療報酬改定で加算対象となった医師事務作業補助者は、病院内の日常の診療においてなくてはならない職種になりつつある。しかしながら、学術的な原理や方法論の機序や課題解明に迫る研究は不十分であり、何がどこまで明らかになっているのかを一旦整理し、把握する必要があると考えた。本発表は、先行論文240件について量的なレビューを行い、かつ、可能な限り入手できた144件について質的なレビューを行うことを目的とした。その結果、量的分析から、この分野の科学的な研究基盤が2008年を境に揺籃期から急成長期に激変したことが解かった。また、質的分析結果から、これまで医師事務作業補助者の職務が曖昧であったがために、研究の関心は、職務範囲の決定方法と導入方法の事例報告であり、原理を求める学術的な枠組みによって研究された論文数は極めて少なく、今後は科学的理論の枠組みを備えた研究が求められていることが示唆された。

研究発表⑤【ビジネス系学科におけるメディカルコース教育の在り方】

河合 晋・黒野 伸子（岡崎女子短期大学）



河合晋先生

本発表は、「メディカルコースをビジネス系学科の中に設置している短期大学」において、その存在意義と教育の在り方を考察することが目的である。アンケート調査等の結果、短大ビジネス系学科メディカルコースの学生は、医療事務系資格よりもビジネス系資格の方に具体的なイメージを有する傾向が強かった。地元医療機関が求める人材では、その多くが医療事務系資格を必要とし、採用でも考慮している。加えて、ビジネスマナー系とPC系の資格取得を求め、会計系やデザイン系の知識・スキルも望む医療機関が少なからず存在する。ビジネスマナー教育や徹底したPC操作の習得教育を特色とし、その他ビジネス系リテラシー教育も対応できる短大ビジネス系学科は、そこにメディカルコースを設置する存在意義がある。

研究発表⑥【サービスデザイン教育の現状と応用の可能性について】

町田 由徳（岡崎女子短期大学）



本研究では、イギリスを中心として近年欧州で研究が進んでいる「サービスデザイン」を萌芽的なビジネス実務領域として捉え、「サービスデザイン」の事例と、各国におけるサービスデザイン教育普及の現状を発表した。「サービスデザイン」の研究、教育が特にイギリスで先行している理由として、イギリスの主たる産業が製造業から金融サービスへと転換し、「サービス」に対する意識が事業者の間で高まっていることが背景にあるが、「サービスデザイン」の目的は人：対：人のサービスのみならず、プロダクト（製品）や広告までも含めて、事業者と顧客との間に存在するタッチポイントすべてを顧客視点からデザインすることであり、その領域はサービス産業のみならず製造業や公共サービスなど、幅広い業種を対象とすることが最新の事例研究から明らかとなった。今後は、産学協同で「サービスデザイン」の具体的な応用事例を構築すること、さらにそれを教育としてフィードバックすることを研究課題としたい。

研究発表⑦【プロジェクト型教育の成果に関する一考察】

奥村 実樹（金沢星稜大学）



プロジェクト型教育（報告者が一昨年の中部ブロック報告において「課題解決型プロジェクト教育」として報告したもので、問題解決、社会体験、少人数教育の要素を満たす、教室外で活動をおこなう教育を指す外部と関わるPBLともいえるもの）は、アクティブ・ラーニングの要素など、その教育効果について、また、個別の教育実践の視点について述べられることが多い。本発表は、それら教育効果とは別の視点で、そのプロジェクト型教育が生み出す成果そのものに焦点を当てて報告したものである。このような成果について考える必要があるのは、プロジェクト型教育の成果が、外部社会と関わって生み出されるため、学外の人々にその成果が評価される機会が多くあることによる。他の教育形態と異なるこの特徴から、今回の発表では、プロジェクト型教育の特質から考えられる成果の質を決める要素について分類・考察をおこなった。

【懇親会 in グランドホテル白山】

ブロック運営委員 西川 三恵子(名古屋経営短期大学)

小寒を迎えた北陸での研究会開催でしたが、市内に積雪はなく晴れ間がお出迎えという少々拍子抜けするお天気に恵まれ、懇親会会場は金城大学短期大学部より車で10分、隣の松任駅前にあるグランドホテル白山2Fのグロリーホールにおいて、学校法人金城学園加藤真一理事長のご挨拶と乾杯のご発声で懇親会は開催されました。

懇親会の参加は25名でしたが、研究会参加が30名でしたので83.3%の参加率はブロック会員の北陸の美味に対する期待の高さが垣間見えたのではないのでしょうか？

歓談の途中、6月の全国大会実行委員長 岡野絹枝先生よりご挨拶があり、金城大学を中心に中部ブロック一致団結して成功させよう！と盛り上がり、終了予定時間に、学校法人金城学園加藤博副理事長の中締めをいただいたのですが、その後も北陸の美味を名残惜しみつつ歓談は少々続き、あったかムードのままお開きとなりました。



【学生プレゼンテーション・コンテスト】

審査委員長 清水 たま子(滋賀短期大学)

最優秀賞：中田友莉恵(金城大学短期大学部1年)

優秀賞：井城久瑠美(富山短期大学1年)、佐藤 愛(新潟県立大学3年)

奨励賞：沖高沙織(富山短期大学1年)、鈴木翔大(名古屋経営短期大学1年)

丹羽郁晴(名古屋経営短期大学1年)、向山茉希(金城大学短期大学部1年)

審査のポイントである①説得力・印象②内容③コミュニケーション力④機器操作のいずれも、年々向上しているように思います。どなたのスライドにも見せる工夫があって、作りながら楽しんでいる様子も窺えました。最優秀賞の中田さんは総合的に高い評価を得ました。何枚かのスライドにご自分の姿を登場させて構成しており、画面に引き付けられました。鈴木さんの模擬店に出した商品のイラストは色彩豊かで、今でも印象に残っています。また、発表者自身の表現は説得力につながります。優秀賞の佐藤さんの話し方は、自然体で美しいものでした。同優秀賞の井城さんはハキハキとよどみなく声に張りがありました。ただ、全体をとおして、演技者のごとく作った話し方に聞こえてくるという傾向を感じました。このコンテストがエンターテインメント化するのは本意ではないと思います。この7名の方々がさらに研鑽を積まれ、次年度も出場されたらどんなに素晴らしいものになるかと想像を膨らませています。



【中部ブロック共同研究助成 公募のお知らせ】

テーマ 『ビジネス実務教育を支える専門教育のための次世代型教材の開発』

〈概要〉

標記の教材開発を通じて、ビジネス実務学の学際的意義を明らかにし、各自の専門領域をいかにビジネス実務教育において展開すべきか、ビジネス実務教育における専門教育のあり方について考察することを目的とする。

〈リーダー〉 岡野大輔(金城大学) 〈助成額〉 5万円 〈応募締切〉 3月31日(木)

※お問い合わせ・応募先メール tejima.shinsuke@aichi-toho.ac.jp (手嶋)

【編集後記】

ブロックサブリーダー 加納 輝尚 (富山短期大学)



平成27年度中部ブロック研究会は、北陸新幹線が開通し、今最も注目される北陸・金沢の金城大学・金城大学短期大学部にて開催されました。ワークショップでは、金沢大学・杉森公一准教授をお招きし、アクティブ・ラーニングの本質を考える機会をいただきました。また年々レベルアップする学生プレゼンテーションは、指導内容を振り返る貴重な機会となっています。研究発表では、先生方の貴重な知見を共有させていただきました。厚く御礼申し上げます。引き続き役員・運営委員・会場校の先生方をはじめ、会員の先生方全員のご協力を得て、ブロックが一丸となり次回の全国大会を成功させたいと存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。